

略
譜

吳郡
吳郡
吳郡
吳郡

由
由
由
由

由
由
由
由

二百十一冊ノ内



庫	文	閣	内
五	三		和
六	六		書
二	一		
架	冊	號	類
一八			



内閣文庫	
番號	和 36088
冊數	211 (178)
函號	156 17

九
377

有德院殿

記録御用所

弓削多

高三百俵

源姓

家紋 丸内指梗

六孫王經基之後孫弓削多孫有

基長元氏伴經基春紀藩に在り

基春惣从

基改

孫有

初紀伊中納言殿より侍り享保元年



八月四日

長福君二死上死為入京供在出近習
為廣米二百俵と賜入○同十年六月
二日死四十二歳四日令孫子三子

景福

甚左衛門 孫右衛門 平右

有徳院殿下初身○享保十年九月九日
誕生小書信○寛保元年八月九日

大西島○延享元年十二月十日死
小納戸○同二年九月廿八日死
勤○同三年十月十日死西九勤○寛
十年五月十日死○同十年
九月六日死○同十二年十二月十日
為死附○安永八年四月十日寄合
○天明元年四月廿日小納戸○同
年五月廿五日死附○同二年七月
廿日二死出島寺死○寛政四年同月

女史老免考合時後三〇同年八月
十子死七子已葬同寺

獨之患

景利

海内院殿明和八年二月初見〇明和八年二月四日死

十子葬同寺

景禎

平右

杉之助

利發 権心

明和八年二月廿九日惣領〇安永
三年十二月廿二日初見〇同
元年六月二十日小納戸〇同八年四月
十八日考合〇天保七年九月十八日
考合初米差上惣領除〇寛政二年八月
令掃寺也子と成出家

琴隆

孫右衛門

相子物

子代子物

天保七年三月廿二日男忠成○同八
年六月廿二日初見○寛政三年三月
九日中書院為○同八年十二月廿二
日成山信子為射多日廿二日河坂三○
同八年十二月十日西尾勤

廣忠三郎

弓氣多

高直者指若三年三月廿七

藤原雅

家教

上藤原弓氣多
梨子切口

藤原雅三郎

七郎沙那

昌利

初見山義光氏○天保十八年三月

廣忠三郎同族○河坂三郎同族同年

青島三河の地味年分り義元
ヲ以て安祥の地味年分り信廣ヲ攻
時七弟次郎因天目一木ヲ燒出寄手
數三三九破敵數百討捕昌利敵之
十捕之將信廣信廣未也ヲ捕之拒
四面鹿城ヲ燒之取圍其意ヲ雪
御田信長使節

竹千代三河島津城信廣ヲ攻之破

是年信長又思之しし年年中勢
義元家林大信廣ヲ通勝信廣ヲ
未其例多し信廣死信廣早ク
竹千代三河島津城信廣ヲ攻之破
長門許谷別領三河信廣ヲ攻之
野乃方諸事

竹千代三河信廣ヲ攻之破
赤子三河信廣ヲ攻之破

三原政道邦上野南宮珠及市物之内
時是八中五部義經等物也
昌利正平功之常之給。永祿十三年八月
貞治三年

東宮昌利正平功之常之給。永祿十三年八月
昌利正平功之常之給。永祿十三年八月
我々

攝津守 源七郎

昌吉

昌吉

昌吉

昌吉

昌吉
昌吉
昌吉
昌吉

大石門長七郎 留之助

昌友

寛文三年十月廿三日 相之助

。歸書。寶永七年九月廿九日 留之助

。海河

留之助

源七郎 又吉

昌行

源元珍

寶永三年四月廿六日 源元珍

日吉社落成。同九年八月廿五日 源

。同十年九月十日 源元珍

月廿八日 源元珍

。同四年二月九日 源元珍

。源元珍

源元珍

源七郎 求馬 崇光

昌芳

天文三年三月十八日初見。延喜四年
三月三日。春。中。書。傳。曰。五年。春。十
月。書。院。書。○寶曆十一年。六月。廿三日。是。日。
用。○曰。十一年。六月。廿五日。以。是。表。出。三。國。
蘇。子。諱。政。國。香。川。部。之。百。馬。地。是。日。用。
相。馬。○曰。十一年。六月。廿五日。是。日。用。安。永。十一年。

甲。曰。是。日。社。奉。成。○天。保。十一年。八月。廿九日。
平。安。京。御。所。同。寺。

又吉 錫藏

昌芳

寶曆八年九月朔。
德川宮内卿殿。出。方。書。○曰。曰。本。大。書。○明
和七年八月廿二日。元。平。二。年。表。出。將。同。

又十册

昌

明和九年九月廿三日家書。天明四年
有老白鳥大書。實政七年八月廿九
日此書并了。

權左衛門

信行

實政七年八月廿九日家書。天明四年

有老白鳥大書。實政七年八月廿九日

此書并了。天明四年家書。

忠右衛門 孫助

昌

安永元年九月廿三日家書。天明四年
有老白鳥大書。同書。天明四年八月廿三日

書院書。宣政七年五月廿六日。書院應
手。中書。少。之。世。存。信。入。善。和。回。年。十。月。十。七
日。差。也。多。

[Faint, illegible handwritten text]

本院

遊在

高貴

藤原

家教

少。劉。官。氏。朝。政。士。下。自。出。在。河。内。信。教
長。田。原。氏。也。信。持。長。子。

九下

新書

信重

代。高。山。屬。南。城。上。中。下。諸。州。相。助。

大藏經部

千一... 余... 遊。

嚴... 上... 田...

無... 上... 存... 上... 亦...

一
其書... 相勸... 上... 難有...
其書... 關我... 中... 一度...
其書... 以... 未... 時... 銀...
子... 集... 載...

嚴... 殿... 不... 同... 亦... 亦... 亦... 亦...
其... 病... 用... 醫... 藥... 故... 得... 可... 言... 口... 清...
上... 下... 醫... 材... 自... 呼... 進... 一... 自... 上... 下... 亦... 亦... 亦... 亦...

重... 可... 醫... 百... 名... 師... 不... 良... 也... 萬... 治... 萬... 年...
介... 月... 十... 七... 日... 於... 國... 於... 元... 年... 九... 月... 九... 日... 於... 京... 師... 之... 金...
板... 法... 泉... 泉... 寺...

可... 言... 有... 壽... 一... 卷... 九... 下

醫... 藥... 餘... 年... 十... 月... 十... 日... 初... 見... 亦... 種... 六... 年...
元... 年... 十... 月... 十... 日... 初... 見... 亦... 種... 六... 年...
元... 年... 十... 月... 十... 日... 初... 見... 亦... 種... 六... 年...

上卷 元藏 九伯

信度

明和元年八月十三日奉書。同日奉旨

此中書齋印

常憲院所代

湯淺

平姓

高百八十俵

家紋

丸内上桐蝶
須淺内万字

紀伊國熊野八咫司之角湯淺權三氏
宗重之後亂紀州湯淺之伯湯淺權三氏
某より相續湯淺右近正壽末孫後加
州令次之正湯淺三郎重信宗房惣氏

賢廣

伴右忠

平石三人持杯揚

東福門院清卷不人。○嘉應三年也
月十日小細戸也勅定段。○寛文七年
十二月廿七日東部少之死八十三歳

清元

孫作

寛文八年二月九日家督

東福門院清卷不人。○延享六

年慶州正月七年二月也為地

石の。九清卷不人。○貞享三年二

月廿七日明信院殿也清不也卷不組

作付也。言百儀之。口欲。り。一五

現来廿六之。人。口。想。从。孫。平。口。欲。り

表也。卷不。人。作付也。言。別。家。と。り。り

○元禄六年十二月廿七日被任。○宝永

五年八月五日死七十三歳麻布教

運寺。の。葬

近義

孫平

孫捨石之入使持節之入別家之傳也

清利

孫玄清

孫翁

實 孫玄清之孫玄清之重玄二男

玄子 近義列後玄子玄子玄子

元祿六年十二月廿七日 孝子孫玄

明信院殿玄孫玄玄孫玄玄孫玄

永元五年五月廿五日 一統小普信

同三年七月廿七日 玄天玄玄玄

四年四月廿日 病死小普信 同年

八月十九日 病死 同年 二月

十八日 同年

清房

在月

元文四年八月十九日家督小菅清
○同五年八月廿八日富士見出家
龍番○寛保之年十一月廿九日福
少十人○病免小菅清○宝曆七
年正月十日死同寺

清義

五郎左衛門

子左郎

宝曆七年四月三日家督小菅
清○明和八年十月二日病免小菅
人組○安永八年四月十六日病免
○天明之年八月廿六日病免勤○同
年七月八日病免小菅清○同三年
七月十日死早二条同寺

清信

孫三清

子左那

天保二年十二月廿七日家法百少當
信。實改口年九月廿五日初見。同
九年十二月廿八日家法定出紋。

大猷院殿沖代

湯上

高二百俵

藤原姓

家紋

十ノ有ノ月ノ上ノ字ノ
横木凡

田原友之秀御十二代後孫
秀賢末流横津國有馬郡湯上
ノ居頃家名湯上ノ姓ト湯上孫惣
右ノ惣直二男

惣改

孫次右衛門

内保和親次。享保三年五月充免
○同十三年八月死。享年不詳
同寺

兼林

弥市郎

元禄十八年二月官梅田内殿にて
以基不人見。○

文昭院殿西内。以梅。以西内表。以基

不人見。○寛永元年西内表。以基不
人。○以不九勤。○享保十三年八月
家督。○同十四年同九月女。以病
免小普信。○延享二年十二月廿七
就任。○寛延二年七月。以死。享年
二歳同寺

兼種

弥市郎

寛正二年十二月廿七日家督由良丸
表由良丸死。宝曆元年
十二月八日死。年九。同守

昌信

弥次右衛門

弥十郎

实兼林二男

宝曆元年五月廿九日薨。同守
十二月廿八日家督由良丸死。同守

同八年九月十日薨。由良丸。安永
六年四月十日薨。由良丸。天保
元年七月廿六日薨。由良丸。寛政
三年二月廿五日薨。由良丸。享和
令二叔。同守。十二月十日薨。同守。同六
年。同守。十一月十九日薨。同守。同守

昌章

弥次右衛門

右平郎

天和二年十月十八日二九張苗作付
ら道廣来百五平儀約入。同年十二
月十八日廊下苗加杖五十儀。貞亨
元年十一月九日加祿五十儀。元禄
九年七月五日^{陽春}病没。凶徳五年十
月八日死

永善

源三郎

元禄九年七月五日家督廊下苗
○宝永六年二月廿日西九一岡小善儀
○享保七年八月十日死

清永

百助

享保七年八月二日家督小善儀。○
同九年八月十日甲府勤番。○宝曆
十二年正月病没。○天和二年十月

女九日死五十七歳用別遠光寺村佛
國子よ葬る

猶永

直次郎

明和二年十二月廿六日家督甲府
勤番女永同八年十二月九日死四
六歳同葬

永良

百助

孫惣次

安永八年十二月廿七日家督甲府小菅信
○同七年十二月甲府勤番

常憲院及清代

湯川

高二百係

春源姓

家紋 花菱

湯川安太夫元春三氏河川道閑

其男

延房

壽三

町醫師よりより。宝永五年十一月十日。孫福。同七年四月廿日。

同寺

同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺

同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺

寛房 文軒

同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺

同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺

同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺

同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺

同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺

忠房

安貞

同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺

同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺

同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺

同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺

同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺 同寺

同寺

同寺

同寺

元倭モトシツ

安道

實多紀永壽院男

寛政十年七月四日養子永壽院小

普信

寛政十年七月四日養子永壽院小

寛政十年七月四日養子永壽院小

法

法

中比

中比

高四百五拾石

平姓

家致九月廿三日

三浦大外義明一男松本右衛門義宗

三男和四三郎宗實長男中比右衛門

宗常二十二代孫中比左衛門宗常

長男

左衛門

氏致

宗勝

始今川家之仕氏宗没后之後治人駿
頭之孫立山如年月与分

东照宮（百四）之水車仕。天正二十年二月

十日米比古拾石。慶長六年（月日）

大徳院殿（女附）如年月。寛永五

年四月二十如次全降。与死同。了

願寺之葬

光勝

平之傳

寛永六年十月五日。如傳。其後

以勅定。不其氣。同九年七月。以

已。以用。同十九年。如（月日）書。留。在。所。

（年日）如秩。或。百。俵。同。治。三。年。十。月

七日。死。

光憲

長之傳

万治三年（月日）如傳。其勅定。改。支。配。

寛文三年（月日）如傳。大。所。為。同。延。宝。五。年。

書習奉行。○平後如秩或百康。○天和
二年。朔日代官。○元祿五年。四月
九日。改政。○古放。逼塞。○同六年。四月
十日。免。○同七年。五月。朔日。少善。信。會
見。遠。急。○同七年。五月。八日。免。○
室永三年。朔日。改。仕。○同七年。二月
十日。死。淺。子。秀。松。院。葬。

光儀

平右馬

室永三年。七月。八日。免。少善。信。○正
徳五年。九月。二十日。死。同。年。葬。

邑勝

長玄清

正徳五年。十一月。晦日。免。少善。信。○
元文五年。六月。十九日。大。免。○同六
年。二月。七日。免。○延享二年。正月
廿五日。死。同。年。葬。

長坂所

貞勝

延享二年四月六日家督小普信。同
年六月廿五日田安親王。同三年四
月九日勅書。同年十月廿九日勅書
明和元年同十二月廿九日同祖子以。
同六年十月二條左馬守。
心鏡院殿御禮位御任記室命左近
守或秋時少貳。天明二年十一月十日

西元十八日同月十八日布衣。同六
年同十月廿日。同九年。寛政五年
六月二日死七孫或孫同寺人孫

荒之丞

之孫

勝有

安永四年九月十七日初見。同七年
七月十九日。同不姓組。寛政五年九月
六日家督

蔵書印



申比

年姓

高式百五拾俵

家致 九月廿三日
九曜年

申比年之清光勝次男

去友書

光齋

寛文三年十一月十九日
初五卯大由妻原系或百俵口同八

年六月七日以納戸方。延享七年分
在百新所敷加杖為格儀。心徳元年
六月十八日病先。享保三年八月朔日
死後系秀松院葬。

長次郎

光年

寶永六年四月二日大。享保三年閏十月
八日家持。同八年四月廿七日病先。

長次郎

権吉

勝今

實者由比岐左衛門某三男

養子。享保八年四月二日家持。同十五年春
廿六日大。享保八年八月廿三日
刑部卿殿出立。元文元年七月八日病先。
寛延三年二月廿七日病先。

勝成

平 民 助

實者由比長三國邑勝二勇

實延三年九月二日養子葬。實慶二年九月

十日養子葬。實政三年九月十日養子葬。

葬同寺

長春園 八 年

勝喜

安永四年九月十日初見。實政三年八月

三日養子。同五年七月五日養子。同七年三

月養子。同十年十月十日養子。

移

專

高三百俵

源姓

家数

九百三十三
九内銀三拾餘

源姓の方はあり
專又三國忠臣三勇

專石園門

忠治

清和天皇

實文三年二月十九日初見。同年三月

廿五日書院書。同年三月廿六日集

口録院。延寶三年八月廿五日。并許筆
佛心寺

忠次 治國門

櫻山殿。長壽寺。先。山録院。○靈永元年
西。戶。入。良。同。身。土。百。相。高。師
考。○延寶三年八月十八日。山録院。其原

三年八月十八日。山録院。其原

忠時 又九國門

省清内藤彦四郎勝永治男

延寶三年二月廿五日。其原三年
十月廿八日。其原。○同九月十九日。其原
姓組。同十月三年。其原。其原

○同十三年四月日走之成。寛曆四年
二月五日此指武家并同。

忠政

治國門

實者忠政長子

元文三年正月廿八日葬養子。寛延

三年正月廿九日。實者忠政長子。寛曆

三年正月廿七日。元文三年三月廿九日。

忠政長子

忠貞

實者忠政長子

寛曆三年正月廿五日。實者忠政長子。同

年九月廿九日。實者忠政長子。同

五月初見。同八年正月廿三日。實者忠政

。安永四年正月九日。實者忠政

五年八月九日傳名。寬政五年八月九日
在事宮廷並同

次在事

忠怒

寬政五年八月九日家持。同八年青
廿五月初見。同九年同七月廿六日
賜取。永享中。同月廿八日廣重

忠怒文

由良

源姓

家紋

新田左中將義貞後疏上野必新田

今公同必相生為城之由良刑於左備
始号横瀬信清守正位下引左直備
於女御兼信清守成繁嫡子

國繁

信濃守

後信下
式部大輔

天正八年小田原征討以後秀吉より
令云城を石放と進徳志かろう
て常陸小井久々く五千石百石余石
宛り上列の事ありと云あり

東照宮神懸志の命と云あり牛久井
福多し以後も神懸志の事あり
瑞子新六郎後号信房江戸幕府の
御旨と云い文信法寺も御旨と云い
懸念と云い上意と云い

東照宮

古徳院御清直判の御書に載り
五年関原の陣の事江戸幕府の御旨
と云あり

古徳院御清直判の御書に載り
五年関原の陣の事江戸幕府の御旨
と云あり
真田素直の御書に載り
懸念と云い加賀六百石余揚り
合七
子之の御書に載り
牛久々く死守二年
築田所筑波郡

是言一守之御子建立して奉る

貞繁 信濃守 山羽守 新六郎

天正八年、清近守部屋任料之云云
 天下〇慶長五年、関ヶ原の陣、信繁
 永井右近守直掛お組々々、子勢百
 具し、働し、とて、水野陣の時、加藤二
 子名御入。同七年、常州水戸、清盛

松平周防守康重、松平五右衛門信吉
 七段の城守、定義お番とて、同十年
 九月十八日、伏見の城守。同十一年、伏見
 の城、西九筋、為、此、何、松平加賀守忠康
 次水野信之、其、水野信俊、其、分
 長、三浦監物重政、相、同、同、又
 年、正月、父、病、死、子、七、子、名、余、并
 貞繁、初、任、任、料、又、子、名、平、信、其、下、合、二、百
 二、子、石、余、約、り、り、。在、る、辭、退、仕、部、守

臣料五子石名上之文造从七子石余孫
从此所信庶有之及女大名並奉勅交
代仕下總國市川城之相平津夏子信
之交代也端平辛陽某言内後祿
上仕也付所月書乃裁今人不待○
同十九年大坂出陣之時侍在古井大
炊民利務總作付了也之勢二年時
石連了○元和元年大坂出陣之時同
上之勢十七時古也五月十日時野口

之之勢了之自方之負成来之之討死
之之源子之有八之勢之内之首級了也
○同七年三月女之在不知死年久之
死年八歳因不令教了之矣

忠誓

新六郎

初長誓
元國誓二男
元和六年 同日 春子○同七年三月

其の父を病むに病此は其の拜獨せり
其の父は嫡子とて跡武物とてやる由は
よく文達成七子石收とありしか
家範と思ふとて同九年月日忠恕
新よ年久成の月石收物とて其後
大は右京亮基年と並ね勤し
寛永四年病とてとてあつた知り
其の父の同十年清上洛のそに清
書院書とて其の年還後其後病と

同十六年二月十八日死す年一歳二
中板國昌守とて
忠恕とて初長とてとて
右徳院殿清の字物とて忠恕とて
しとてしとて

親

信濃守

新六郎

天麻

寛永十一年初見○同十六年

○寛文元年九月三日内裏出遣書
の付在りて上京すべく旨出候間
三年二月十日参内同年七月廿七
院参同年九月五日女院御前出遣書
上すべし

禁裏より秋仙の子繼白縮緬十卷

仙洞より白瀑十丈取書合入出遣書物
女院より雜子前給出廻若女院出下給

色紙 照光院御前
跡目見出書 孫次 女院御前
東橋院御前 ○

海府の同下年九月八日書家○同

貞年五月六日從五位下侍從信清書

○保勢日光御名代東朝出使成りお

勤且之家不仕作月におより家の之

親よりよく知約取出候と御しる言

家作付しる言も同様参勤交代は

兵宗二年正月甲子紀年十九歳為

川若芝之金親より書す

新田義重兜并小柄頼朝々判物自

筆に文足利義晴より拜仰し上院
下院にその方共清月書教毎不
院に上院在海上院に寛永十八
年九月七日田中守と云ふ系
出の在推上院の首に作出同月を
上院

貞満

去陽
月茂助

志安の次書院書○敏林出子

お勤り交不調法ありて誓居○天和二
年十月之に死す年六氣子孫の縁

頼繁

信濃守

新六郎

日見
信之

寛文六年九月三日初見菊の百席
作月道一雁るる諸山奏者為嫡子
上院に在りし者○同十二年十二月
廿八日部在信村三百席○延宝二年

七月十一日。求沙也。○同七年八月三日
之。○同年十二月廿八日。從又位下侍
從信法寺。伊勢日元。伊豆代。東。於。後
下。○貞享二年十二月廿八日。從又位
下。○元祿八年十二月廿八日。出級。少。先
之。家。末。席。○同十八年八月廿八日
死。五十一。歲。二。不。校。國。昌。守。又。受。

刑部 源 助

貞長

元祿十五年七月廿七日。求沙也。○同
十六年三月廿八日。初見。○宝永三
年十二月廿三日。之。格。之。每。菊。之。百。席
作。月。之。也。山。美。之。名。高。嫡。子。之。之。元。月。同
七年十二月廿三日。之。家。○同十二年
四月廿八日。死。三。年。日。氣。同。奇
先祖。傳。來。之。品。自。是。利。義。晴。之。模

淑信法師の春經孫成之上部中經之
古力一腰并義信の圖書抄係不持匠
有徳院殿在の上の有り之庫凡之の掃
跋河の貞顯の法師有り之有り日人
之の享保十三年正月之入上院

貞整

播磨守 源六郎 新六郎

享保十一年十二月之初見表之表。

同十二年七月十八日家督。寛保三年
十月十五の表家從下侍は播磨
守。保親日光御名代京師御使
方。○享保二年三月廿六日紅葉山
八講法住寺御用齋堂時後。○同
日奉十月朔日御即位の祝儀。○
大御所より京師の使右勅旨の雅叙色
從四位下。○寛延三年四月廿日
大御院殿百圓御宗也法寺正月日光山

沖用。安曆六年八月三日。苗田信守
織田對了。同日。右勳首。同十年
八月廿五日。沖博任。少佐。依。沙。使。松。平
肥後守。差。係。勤。有。沙。推。敏。通。信。口
位上。安永二年。正月十五日。四女。清
八月。沙。使。松。平。務。敏。方。是。副
石。勤。有。沙。推。敏。通。右。近。務。松。少。右
○同。又。年。四月。日。光。沖。社。系。沙。光。勤。
同九年。四月。九日。病。死。言。家。末。席。○

天保二年十月十六日。起。同。奇。
後。白。門。院。保。元。年。中。下。帝。不。文。并。賴。朝。之。文
作。建。久。年。中。之。判。物。自。筆。下。之。假。名。文
且。新。田。義。重。境。美。少。刀。柄
有。德。院。敏。在。上。少。矣。醫。所。今。大。路。道。三
之。以。也。身。之。存。同。之。之。以。享。保。十。七。年
三月。十八日。在。入。上。院

貞通

信濃守 新六郎 中三郎

天保平大和守明能之男

源江 大奈

宝曆十二年十二月廿九日拜表。○
明和元年九月朔日初見表。○
安永二年八月十日言表。○
後元位下侍從。○同五年六月廿七日
河名代涉使。○
高道友科子儀之孫。○
伊勢日先

仙波河名代東於出使。○
天明二年十二月廿日。○
七月九日。○

貞雄

新六郎

天明七年二月十七日。○
寛政二年十二月十五日。○

Vertical columns of faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

常憲院教訓代

由田

言二百條

源姓

家紋

源氏車

光源院義滿二任按津國洲山城之
紫合忠後子末末流由田作多美清久
惣从

清房

傳古書

母源朝田清房二出在古在古之廣寬

古書之常文元年九月對經以京字之祖百條之持持。

文十年八月神田湯殿に新視石出
○加藤廣末二百俵納しり○山納戸段○正
宝八年西に丸山納戸段○天和三年
九月西に丸山惣並小普請○貞享
四年十二月に丸山極昌院殿沖廣浦
高次○元禄二年十月二小普請○同
六年四月に丸山離宮普請納戸等
等

清信

傳者出 助者

元禄六年七月十日家督小普請○
宝永八年九月十日此同奇

清忠

伝者出

寶永宝永八年五月廿七日養子此同奇

山德元年三月廿五日 卯年六月廿日
新寺ノ發

清貞

平左衛門

平右衛門

寅 内之字 葛西為三郎某二男

正徳元年三月廿五日 卯年六月廿日
卯年六月廿日 半人組 享保十
年七月廿日 卯年七月廿日 卯年七月廿日

同十六年九月十日 卯年九月十日
延享元年六月十日 卯年六月十日
改日年十二月十日 卯年十二月十日
土月十日 卯年土月十日
八月十日 卯年八月十日
卯年八月十日 卯年八月十日
卯年八月十日 卯年八月十日
卯年八月十日 卯年八月十日
卯年八月十日 卯年八月十日

貞明

學年所

寛延二年十二月廿六日大出番。○安永
四年七月二日大出番。○同年
八月廿七日父死。同日。○同九年十月
十七日二条五番。少く死。六十八番。京
出。水色。不。昌。守。子。安。

清林

平比郎 平左衛門 老助

安永九年十二月廿七日家督小出番。
○天明四年九月八日大出番。○寛政
十年十二月八日新出番。

東照宮御代

目賀田

高六百石

藤原姓

家紋

杏葉
露丸

目賀田横津寺堅綱天正十年

信長三属江別愛智郡目賀田之儀

目賀田横綱二氏

堅改

横津寺

小次郎

天正十年春織田信長

東照文甲州武田清延治其地三月信長
駿河國と云ふ進甲州より清凱陣に
後有る所於に清上原を獲り河江別
番馬二匹宿を獲り其信長を指し
此地を上下に河野改家と侍り
鞍馬と云ふ馬と云ふ

東照文より河野服者と揚り来り
東照近侍在河野より信長を討つ
お海大坂陣に参り入る此信長は

河野内明智謀叛より信長は
落命此等動有八幡屋りの此道筋
ありて河野越上河野別上河野
向る河野存すつと有上意あり
此辭退り上河野不仕河江別上河野
秀吉に侍者より明智と討亡し
其後秀吉より池田信雄より其指し
伯父甥と續け河野より其後和泉
形は横津より其羽子郎左衛門

らるる後

東照天皇天下統一統之府を或河橋津を
いづるに山舟ありて山長道河原出
諸より一月石出後より一月山長
其御病氣より石舟より後續も
三月山崎左馬允より者上方に
在る方此方より紙尾舟より成居山崎
甲斐守より成居橋津より成居新井宗
初より甲斐守より成居中成羽より

寛永二年 朔日 死 六十九歳

守成 次郎左衛門 右衛門 兼左郎

寛永十五年二月廿七日浪人より
一。肥前國博多に接落城に御日向
守人数五組に月家免廣田昌書に
首二級打死す成切に信書更に
合戦は水より成居山長飛騨守人

入替に於て日向守人教引上ケル辭爲
後も引上ケルに後備後福山に浪人
少く存立ケルに日向守人教引上ケル辭爲
馬場守人少く

東照天皇より拜願し水原指慶安五年

正月廿七日 瑞雲の年 月 日

守政

友友 幸右衛門 大茂

友友 幸右衛門 大茂

加茂肥後守清山室由緒より二月二日
何備後より原於ト引上ケ肥後守
言より春首より夏末應二年四月
紀伊大納言頼宣より清藤中肥後
守是女二月三日より二十日某日
紀伊殿上より出小姓子後藥也
小姓使役既お勤。宝永六年
春被任。正徳元年六月二十日
二歳

守奥

次郎左衛門

水野日向守家一人少く水野英能守八
之跡絶

守以

治部左衛門

水野年一人家一人

守有

五三郎

水野年一人家一人

守明

幸左衛門

五郎七

紀伊殿家一人

守威

長門守 伴能守 長門守 幸助

宝永六年十二月紀伊殿一人少く

正徳六年四月丙申九月丙辰依西小畑
康米二百俵。享保八年六月十八日
加授二百俵合五百石。同十年
十二月十六日叙爵。寛保元年十月
十八日加授二百石。延享二年西九月
同三年六月廿六日西九月小畑戸部左
子五百石。寛文元年七月十日
一統寄合。同年十月廿八日御定
西渡砲隊。更相親。同射禮古式法

西九月御勤。有宝曆十年八月
小笠原澄殿助持易年若二月射禮
古式。同親。同。同。同。同。
十三年十月廿日。同。同。同。同。
年八月廿七日。同。同。同。同。
三月十日。同。同。同。同。同。同。
同。同。同。同。同。同。同。同。
更相親。同。同。同。同。同。同。同。同。

守孫

劉助

寬延元年五月廿八日初見。○同三年十二月廿六日書院為。○同三年三月廿六日小納戶。同年十二月十八日布衣。○同四年七月十三日一統。○寶曆三年八月十日。○同二年二月。同奇。

守縁

菊刀

杉之郎

寶曆四年二月十一日初見。○同七年十二月廿六日小納戶。同月十八日布衣。○同十年八月十八日。○同九年八月廿一日。○同五年六月二日。○天保七年。○同日死。○同二年。同奇。

義陳 金助

宝曆五年十二月十日新親石出
建美次郎殿近守為子後山附坊

守者

龜之助

大藏

長安永正五年八月廿二日初見。天保七
年四月二日家督小當信。寛政

二年七月二日死。年三十一。同子。

守約

幸助

寛政三年十月四日

弟良之系傳

人藏村鎌足之子三代孫

一家之故

丸之内探在鳥羽

尾巴 但替文

一帯之故

右二云抄用

右故由來不明

菊比石見守主権子
藤原重光
印付直心
并良之見

比石見守重光初為入来浪境村住居之
傳世之如何由住居之状由明

主権
石見

主権
石見

主権
浪境村

主権

主権
石見

實志主権二方主権為長子
十石代 清見是子即事跡亦不知

主権
石見 初出石見

主権此後出林麻郡系也
母 家系浪境氏部古史系結女
家督年月不知

秀吉之友也貞見年月如

志長六十年九月九日没 永康之友也

在信留長每有長心之儀也其推言也

云 作其秘儀事今後絶一切事入

以系於事今中心烟燒事是又の信也

以十之右身良少也其信也其由也

清軍中下之儀也代替之友也其由也

信也其由也其書也其家也其由也

一家康之友也其知事也 貞見

一 秀吉之友也 貞見年月如

一 承意二之友也 八月十八日在信也其味也

一 承意三之友也 不知法也其信也其由也

一 夢其年月如也 承意三之友也其信也

一 承意四之友也 大徳也 其信也其由也

一 承意五之友也 其信也其由也

女子

大月

主連

續部

初師次郎

生也往後出煉麻郡赤良山

母家女

妻産屋列部良牙良大寺物主娘女

永享元年八月不知

一 秀忠之次女 清貞元年八月不知

寛永七年六月十四日往後出煉麻郡

赤良山赤良寺不知法名新三守一仲通守

赤良山同郡赤良山村下村新三守

女子 赤良山赤良早之屋妻

母家女

秀程 修徳通守不動院赤良山

大月

守季 赤良山

大月

女子 人吉郡赤良山

大月

年事

實年定降之日主由為事

生由托後玉煉麻那并良心

母年正月

家督年正月

一 家光之友 中貞年正月

寛永十五年寅年一月八日於托後玉煉麻那

并良心死吉事年正月法名陽光院者山京寺

葬月山郡并良心後院村并岸寺

別降

年事

生由托後玉煉麻那并良心

母年正月

家督年正月

一 家光之友保之甲申年正月 中貞之友後二

夜中貞年正月

實年九月年十月十日於托後玉煉麻那

并良心死吉事年正月法名月經院者山

系松葉同山同郡赤良山材高村吉徳

別帳

大系人吉部中居使

別降月

武博

因信 大月

大月

別手

不接

初西節九

定修後道と水林橋の別降為高子

生國比信玉味麻郡赤良山

母家女

素人吉部中 大系在在居使女

赤良山赤良山

一家獨之承意二妻正年初多 信月人子之後又

及中月人年月日知

天和二年庚申三月十日有能往後山味麻郡

赤良山赤良山不知法名子之院松輪仁壽

藝月山味麻郡赤良山小川村

別信

二日信

初信年

生也此後小波麻那 亦已
 母人言亦也 女重也亦亦也
 妻人言亦也 可也亦亦也
 亦亦亦亦亦亦
 一 編古之公及 骨身人年月亦也
 家宜之公也 二 辰年初也 亦也
 山徳之亦年 病身亦也
 元文也亦年 九月有於此後小波麻那
 亦也山也亦年 亦也山也亦也

藥門也那亦也山也村

出別 亦也 社身也山也

母別信月

別家 集人 大月

大月

別元 王孫 初也水

生也此後小波麻那 亦也
 母人言亦也 可也亦亦也

素人吉部中 素甲次九妻の女

正徳又之末年 素部 素部

享保元年中 素部

吉部之 初者 素部人 平之 後 同 又 素部 素部

貞元

同 素部 貞元 素部 貞元 素部 貞元 素部 貞元 素部

芳林院 仁應 素部 素部 貞元 素部 貞元 素部

大女寺

別言

貞元

素部 素部 貞元

母別之月

女部之人

人部之人

素部 素部 貞元 素部 貞元 素部

母之月

別純

貞元

素部 素部 貞元

生 素部 貞元 素部 貞元 素部 貞元 素部

母人 素部 貞元 素部 貞元 素部 貞元 素部

素部 貞元 素部 貞元 素部 貞元 素部

素部 貞元 素部 貞元 素部 貞元 素部

同九甲辰年春府政年之末之病身有伺

之延行

同十二丁未年

吉守之幼方 正見人之後同十六年亥年

同亦之卯年元文正未年寅保二亥亥年

情之 正見

延亥子卯年

家守之幼方 正見人之後同十六年亥年

同亦之亥年同九丁卯年 同之 正見

同十唐寅年同十二壬午年未明和巳亥

年以上正寅年之末松平薩摩守領不

日列佐總部正卯之逃散有同之申年

お良源入府福和の伺之上仕事付

明和二年乙未年二月六日於此信國棟麻部

弟之正死亥年又十丁亥正法名義之院仁是

列紙藝同必同部身之正申川村

列敷

正信

幼在之物

生國行後玉珠麻那并良也

母家女

書人云部中右良藏部女也

明和二十五年家督

月七庚寅年

家法之初見之後也永之甲午年同七

戊戌年天明二壬寅年同六丙午年同同之

中實見

實政二房中年

三子海之幼方實見

同六甲寅年同十戊午年系府既年之也

病是月也中之一系府也

享和之辛丑年病是月院店中告席改

女子 人云部中右良藏部女也

母系也之日本列女

女子 大同 貴甲海之良也

別記

之信 和唐公席



生女は後出棟麻部系女也

母人云部中おらぬ誠部女

高利元多五平家督

如子 日列信紀部中伊孫孫在室高事

母系女

如子

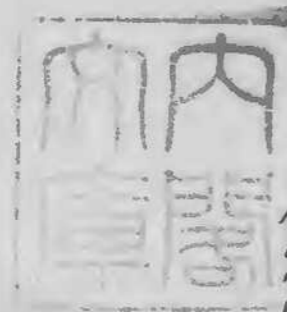
母系女

十右之通清在室高上

狂信也

棟麻部系女也

伊孫孫在室高事



Faint, illegible text on the left page of the document.

Faint, illegible text on the right page of the document, possibly including a signature or official stamp.

